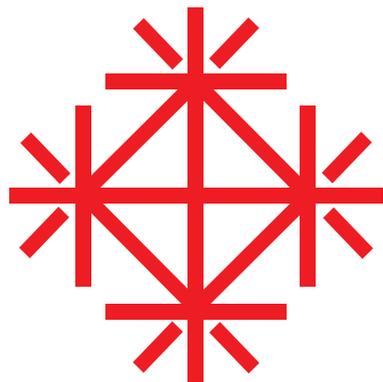


**KITOKU  
SHINRYO**

第59期 株主通信  
平成18年1月1日～平成18年12月31日

**木徳神糧株式会社**

# Top interview



【企業理念】

誠意と感謝の気持ち  
クオリティの追求  
新しい価値の創造

第59回定時株主総会並びにその後開催されました取締役会において平山惇が代表取締役社長に選任されました。また、木村良前社長は取締役会長に選任されました。今回、第59期決算の業績に加え、木徳神糧が今後取り組む経営課題について木村会長、平山社長に聞きました。

## 第59期の業績についてお聞かせください。

当期におけるわが国経済は、企業収益の改善に伴う民間設備投資の増加や雇用情勢の改善等により、景気は回復基調を持続しました。一方、個人消費の伸びの鈍化、原油価格の高騰や米国景気の減速等への懸念が強まりました。当社グループの主力事業である米穀卸業界におきましては、人口の減少、少子高齢化の進行による米の消費量の減少、ライフスタイルの変化による嗜好の多様化、低価格米の消費の増加、オーバーストアによる小売業界における販売競争の激化等により、依然として厳しい販売環境が継続しております。また、全農の米穀事業改革への取組みやコメ価格センターによる入札制度の改定が実施され、仕入方法や仕入ルートが多様化への迅速な対応が求められております。

このような状況のなか、当期の業績につきましては、米穀事業における積極的な提案型営業を展開いたしましたが、玄米販売数量が減少したため、売上高92,000百万円（前年同期比3.6%減）となりました。また、製造と販売の効率化を図りましたが、価格競争が予想以上に激化したため、営業利益432百万円（前年同期比35.1%減）となり、遊休土地及び設備等の固定資産の減損損失1,388百万

## contents

- P.01 トップインタビュー
- P.03 木徳神糧アレコレ通信
- P.05 事業の概況
- P.06 連結財務ハイライト
- P.07 連結財務諸表
- P.09 単体財務諸表
- P.10 会社概要

円を計上した結果、当期純損失1,212百万円（前年同期は290百万円の純利益）となりました。

### 今後の経営課題と取り組みについて お聞かせください。

当社グループの主力事業である米穀卸業界におきましては、人口の減少、少子高齢化の進行、食事形態の変化等により必需品消費財としての米の需要が低下し、消費者の低価格志向が続くと考えますが、一方で健康志向や独自性を求めるニーズの高まりにより選択品消費財としての米穀関連商品のバリュー拡大が進んでいくものと考えております。

そこで米穀業界における企業淘汰が進む中で、精米製造卸会社として、当社は徹底した製造コストダウンを行ってまいります。これにより、販売競争においてより優位な地位を獲得していくことを目指します。また、卸機能の質的向上を図り、消費者と生産者をより近く、より太く結びつける役割を果たすことが重要な課題であると認識しております。

また、当社グループの鶏卵事業並びに食品事業におきましては、外食向け等の開発営業を積極的に展開を図ること、より商品の加工度を深化させていくことが重要な課題と認識しております。

以上の重要な課題を実現するためには、当社グループの企業体質の強化が不可欠であり、これまで推進してきました投資基準の厳格化、在庫の適正化、有利子負債の削減、人員の合理化、管理コストの削減等を引き続き強

かに推進してまいります。

### 最後に株主の皆さまへメッセージを お願いします。

当社は株主の皆さまへの利益還元の実現を図り、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としており、当期の期末配当金は1株につき2円とさせていただきます、すでにお支払いした中間配当金1株につき1円とあわせ、通期の配当金は1株につき3円となります。

今後は、景気の緩やかな回復が見込まれるものの、当社にとっては依然として厳しい状況が続くものと思われまます。次期は当社設立時から数えて60回目という節目にあたり、グループ一丸となって営業面での利益拡大のため、重要な課題に対し果敢にチャレンジしてまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



取締役会長

木村 良



代表取締役社長

平山 惇

## Special feature

## 木徳神糧の〇〇が知りたい! Q&amp;A

## Question

株主に対する利益還元方針について教えてください。

## Answer

当社は、株主の皆さまに対する利益還元の充実を経営の重要課題の一つとして認識しております。配当につきましては、安定的な配当の継続を基本方針として、連結業績の動向、配当性向等の要素を勘案して決定してまいります。今後ともこの基本方針に従い、株主の皆さまへの利益還元重視の姿勢を維持し、業績との連動性を高めるとともに、既に実施している年に2回の中間配当と期末配当を継続してまいります。また、内部留保資金につきましては、経営の重要課題の一つである財務体質の強化と将来にわたって株主の皆さまの利益確保のため事業拡大に有効に活用してまいります。

(単位：円)

期	年間配当	中間配当	期末配当
平成17年12月期	5.00	2.00	3.00
平成18年12月期	3.00	1.00	2.00
平成19年12月期 (予想数値)	4.00	2.00	2.00



## 株主優待のお知らせ

1,000株以上保有の株主及び実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を贈呈いたします。(年2回実施)

6月30日現在の  
株主の皆さまには  
一律  
2,000円相当

12月31日現在の  
株主の皆さまには  
一律  
3,000円相当

今回は、当社が厳選した、宮城県のJAみやぎ登米地区(生産者2名限定)の農薬・化学合成肥料を使わないオーガニック栽培の「宮城県産ひとめぼれ」と、ねばりが強くもちもちした食感が特徴の「ミルクークイーン」をお贈りいたしますので、ぜひご賞味ください。

「宮城ひとめぼれ有機栽培米450g×4袋」  
「ミルクークイーン450g×3袋」

## 健康で楽しい食生活のご提案

最近の健康ブームの影響もあってか、発芽玄米をはじめ、玄米、胚芽米などのヘルシーさを謳ったお米がとても注目をあびています。そこで、今回は、健康で楽しい食生活を過ごしていただくことができるヘルシーライスをご紹介します。

### 白米のおいしさそのままに、食物繊維たっぷり 「すらら精米」&「すらら玄米」

食物繊維の摂取に優れていると言われていた玄米食も、調理に時間がかかる、独特の食感が苦手などの声も少なくありません。「すらら精米」「すらら玄米」は、それらの問題を解決し、気軽に食べていただけるように開発された商品です。



独特の精米技術で白米のおいしさと白米以上の栄養を残しています。研ぎ方、炊き方は白米と同じなので手間もかかりません。早炊き加工の「すらら玄米」もあります。

#### ■ 食物繊維・ビタミンEの白米との比較 (100gあたり)

	白米	すらら精米	すらら玄米
食物繊維	0.5g	<b>1.4g</b>	<b>2.5g</b>
ビタミンE	0.0mg	<b>1.0mg</b>	<b>1.1mg</b>

※当社調べ

### 事務所移転のお知らせ

当社は、平成18年10月10日に、下記住所へ本社事務所を移転いたしました。  
〒132-0015 東京都江戸川区西瑞江2-14-6

### 植物性乳酸菌でおいしく炊き上げた 「ささかみ越後」

「ささかみ越後」は、お米のタンパク質を、植物性乳酸菌による乳酸発酵で低減化（植物性乳酸菌発酵熟成法）させた後に、炊き上げパックしました。一粒一粒がしっかりしていて、ごはん本来のおいしさと香りがそのまま生きています。

<特徴1> タンパク質計算が簡単  
毎日の献立に便利な1パック当たりタンパク質0.3gの設定。また食べやすい量の150gに見直しました。

<特徴2> タンパク質を低減化  
植物性乳酸菌を使用することで、香りや食感はそのままに、普通の白米に比べてタンパク質を大幅に低減、カリウムやリンも抑えました。

<特徴3> 独自の発酵熟成法  
お米の中のタンパク質をゆっくりと確実に抜き取るので、お米のおいしさをしっかり活かします。



# Business review

## ● 米穀事業

米穀業界は、上半期においては17年産米作況指数が101「平年並み」という安定需給環境を背景に、卸会社が保有する流通在庫の抑制を図ったため、コメ価格センターにおける取引並びに玄米の業者間取引ともに低調に推移いたしました。

一方、下半期においては、18年産米の作況指数は96「やや不良」となりましたが、減反面積が目標を大きく下回ったこと、十分な政府備蓄米があることを背景に18年産米の需給が概ね均衡していると見られております。加えて全農改革の販売方針が相対取引主体となったこと、コメ価格センターによる入札制度の改定が実施されたこと等により、卸会社による積極的な入札が行われず、コメ価格センターにおける取引は引き続き低調に推移いたしました。また、消費量の減少基調、消費者の低価格志向は変わらず、厳しい販売競争の環境が継続いたしました。

当社グループにおきましては、提案型営業の推進による新規顧客の獲得、製造・販売におけるコスト競争力の強化、適正在庫の維持等に注力いたしました。

この結果、当連結会計年度における米穀事業の売上高は76,085百万円（前連結会計年度比3.4%減）、営業利益は1,135百万円（同21.8%減）となりました。

## ● 鶏卵事業

鶏卵販売は、鳥インフルエンザ終息に伴う生産の拡大等の影響を受けましたが、下半期に入り鶏卵価格が持ち直したことから前年を上回る結果となりました。当社グループにおきましては、付加価値の高い家庭用特殊卵の販売促進に注力いたしました。

この結果、当連結会計年度における鶏卵事業の売上高は6,710百万円（前連結会計年度比4.8%減）、営業利益は118百万円（同11.5%減）となりました。

## ● 食品事業

製菓等の原料向けであるもち米粉、上新粉の販売につきましては、17年産もち米の供給過剰の影響を受けましたが、既存取引先との取引拡大により堅調に推移いたしました。また、植物性乳酸菌発酵技術によるたんぱく質調整米の販売は新商品の発売等により堅調に推移いたしました。一方、主力の鶏肉販売は、地球温暖化の異常気象や穀物資源を原料とするバイオエタノール生産の拡大等の影響により、生産資材（配合飼料）の価格が高騰したことに対し、市況は相対的に低調で推移いたしました。その他、惣菜販売につきましては、製造原価の低減等に努めましたが、総じて低調でありました。

この結果、当連結会計年度における食品事業の売上高は6,910百万円（前連結会計年度比8.2%減）、営業利益は60百万円（同55.2%減）となりました。

## ● 飼料事業

飼料販売は、当社グループの主要販売先である鹿島地区での配合飼料生産量の回復が続いていることに加えて、槽糠類・穀類の販売が好調であったことや新商品の販売拡大等により堅調に推移いたしました。

この結果、当連結会計年度における飼料事業の売上高は2,294百万円（前連結会計年度比9.3%増）、営業利益は158百万円（同4.3%増）となりました。

# Financial highlight

■ 売上高 (単位：百万円)



■ 総資産 (単位：百万円)



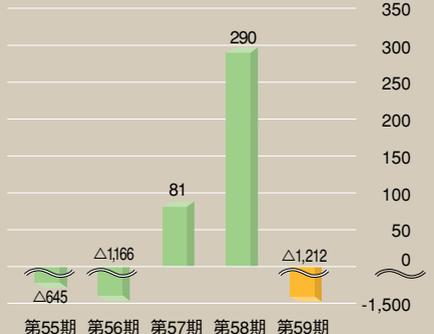
■ 経常利益 (単位：百万円)



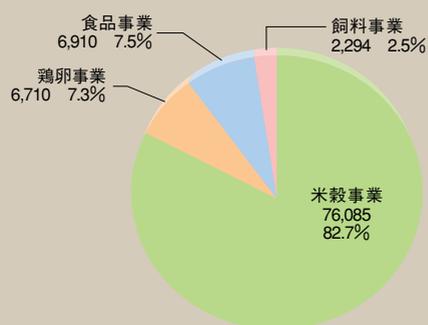
■ 純資産 (単位：百万円)



■ 当期純利益 (単位：百万円)



■ 連結売上高構成比 (当期 単位：百万円)



(注) 1. 第57期は決算日を従来の9月30日から12月31日に変更したため、平成16年10月1日から平成16年12月31日までの3ヶ月決算となっております。  
 2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# Financial data

■ 連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科 目	（単位：千円）	
	当 期 平成18年12月31日現在	前 期 平成17年12月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	15,432,647	17,328,360
固定資産	10,242,882	12,730,490
有形固定資産	7,683,344	9,646,405
無形固定資産	260,654	389,943
投資その他の資産	2,298,883	2,694,140
<b>資産合計</b>	<b>25,675,529</b>	<b>30,058,851</b>

## point

### 資産合計

当期の資産合計は前期より4,383百万円減少いたしました。

資産項目では、現預金728百万円、たな卸資産413百万円、未収入金754百万円の減少があり、負債項目では短期借入金等1,567百万円、長期借入金879百万円、社債290百万円の減少がありました。

（単位：千円）

科 目	（単位：千円）	
	当 期 平成18年12月31日現在	前 期 平成17年12月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	15,360,760	17,056,338
固定負債	6,815,347	8,153,125
負債合計	22,176,108	25,209,463
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	—	426,547
<b>資本の部</b>		
資本金	—	529,500
資本剰余金	—	331,500
利益剰余金	—	3,274,295
その他有価証券評価差額金	—	312,511
為替換算調整勘定	—	△9,733
自己株式	—	△15,233
資本合計	—	4,422,839
<b>負債・少数株主持分及び資本合計</b>	<b>—</b>	<b>30,058,851</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,849,055	—
資本金	529,500	—
資本剰余金	331,509	—
利益剰余金	2,004,988	—
自己株式	△16,942	—
評価・換算差額等	224,701	—
その他有価証券評価差額金	226,891	—
繰延ヘッジ損益	1,655	—
為替換算調整勘定	△3,845	—
少数株主持分	425,663	—
純資産合計	3,499,421	—
<b>負債・純資産合計</b>	<b>25,675,529</b>	<b>—</b>

## ■ 連結損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期		前 期	
	自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成16年1月1日 至 平成16年12月31日
売上高	92,000,293	95,437,969		
売上原価	85,675,248	88,285,460		
売上総利益	6,325,044	7,152,508		
販売費及び一般管理費	5,892,967	6,486,421		
営業利益	432,077	666,087		
営業外収益	257,513	340,656		
営業外費用	378,447	474,459		
経常利益	311,144	532,284		
特別利益	63,372	155,290		
特別損失	1,571,456	113,790		
税金等調整前当期純損益	△1,196,939	573,784		
法人税、住民税及び事業税	86,298	113,013		
法人税等調整額	△77,396	126,547		
少数株主損益	6,608	43,733		
当期純損益	△1,212,449	290,490		

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期		前 期	
	自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日	自 平成16年1月1日 至 平成16年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,232,566	4,685,758		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47,223	△135,175		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,828,006	△5,768,303		
現金及び現金同等物に係る換算差額	562	10,064		
現金及び現金同等物の減少額	△642,099	△1,207,655		
現金及び現金同等物の期首残高	2,671,274	3,878,930		
現金及び現金同等物の期末残高	2,029,174	2,671,274		

## ■ 連結株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位:千円)

当 期	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				少数 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他の有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成17年12月31日 残高	529,500	331,500	3,274,295	△15,233	4,120,061	312,511	—	△9,733	302,777	426,547	4,849,387
連結会計年度中の変動額											
利益処分による配当	—	—	△25,467	—	△25,467	—	—	—	—	—	△25,467
剰余金の配当	—	—	△8,486	—	△8,486	—	—	—	—	—	△8,486
役員賞与	—	—	△22,902	—	△22,902	—	—	—	—	—	△22,902
当期純損失	—	—	△1,212,449	—	△1,212,449	—	—	—	—	—	△1,212,449
自己株式の取得	—	—	—	△1,995	△1,995	—	—	—	—	—	△1,995
自己株式の処分	—	9	—	287	296	—	—	—	—	—	296
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△85,619	1,655	5,887	△78,075	△883	△78,959
連結会計年度中の変動額合計	—	9	△1,269,307	△1,708	△1,271,006	△85,619	1,655	5,887	△78,075	△883	△1,349,965
平成18年12月31日 残高	529,500	331,509	2,004,988	△16,942	2,849,055	226,891	1,655	△3,845	224,701	425,663	3,499,421

■ 単体貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当期		前期	
	平成18年12月31日現在		平成17年12月31日現在	
<b>資産の部</b>				
流動資産	10,029,567	12,067,582		
固定資産	8,103,228	10,239,706		
有形固定資産	4,863,734	6,491,463		
無形固定資産	198,489	309,230		
投資その他の資産	3,041,005	3,439,011		
資産合計	18,132,796	22,307,288		
<b>負債の部</b>				
流動負債	10,517,719	12,122,680		
固定負債	5,156,597	6,507,353		
負債合計	15,674,316	18,630,034		
<b>資本の部</b>				
資本金	—	529,500		
資本剰余金	—	331,500		
利益剰余金	—	2,528,266		
<sub>その他有価証券評価差額金</sub>	—	303,221		
自己株式	—	△15,233		
資本合計	—	3,677,253		
負債及び資本合計	—	22,307,288		
<b>純資産の部</b>				
株主資本	2,235,703	—		
資本金	529,500	—		
資本剰余金	331,509	—		
利益剰余金	1,391,636	—		
自己株式	△16,942	—		
評価・換算差額等	222,776	—		
純資産合計	2,458,480	—		
負債及び純資産合計	18,132,796	—		

■ 単体損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当期		前期	
	自平成18年1月1日 至平成18年12月31日		自平成17年1月1日 至平成17年12月31日	
売上高	68,544,738	71,212,561		
売上原価	65,057,654	67,350,080		
売上総利益	3,487,083	3,862,481		
販売員及び一般管理費	3,020,994	3,355,765		
営業利益	466,088	506,715		
営業外収益	248,500	249,590		
営業外費用	382,491	434,837		
経常利益	332,098	321,468		
特別利益	2,732	1,500		
特別損失	1,523,092	13,084		
税引前当期純損益	△1,188,261	309,884		
法人税、住民税及び事業税	2,027	2,414		
法人税等調整額	△87,614	89,225		
<b>当期純損益</b>	<b>△1,102,674</b>	<b>218,244</b>		
前期繰越利益	—	506,206		
中間配当額	—	16,980		
<b>当期末処分利益</b>	<b>—</b>	<b>707,470</b>		

■ 単体株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位:千円)

当 期	自平成18年1月1日 至平成18年12月31日	株主資本										評価・換算差額等			純資産 合計	
		資本剰余金				利益 準備金	利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
		資本金	資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金							利益剰余金 合計
平成17年12月31日 残高		529,500	331,500	—	331,500	114,146	676,649	1,030,000	707,470	2,528,265	△15,233	3,374,032	303,221	—	303,221	3,677,253
事業年度中の変動額																
利益処分による配当		—	—	—	—	—	—	—	△25,467	△25,467	—	△25,467	—	—	—	△25,467
剰余金の配当		—	—	—	—	—	—	—	△8,486	△8,486	—	△8,486	—	—	—	△8,486
当期純損失		—	—	—	—	—	—	—	△1,102,674	△1,102,674	—	△1,102,674	—	—	—	△1,102,674
自己株式の取得		—	—	—	—	—	—	—	—	—	△1,995	△1,995	—	—	—	△1,995
自己株式の処分		—	—	9	9	—	—	—	—	—	287	296	—	—	—	296
圧縮積立金取崩		—	—	—	—	—	△70,772	—	70,772	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△83,129	2,684	△80,445	△80,445
事業年度中の変動額合計		—	—	9	9	—	△70,772	—	△1,065,857	△1,136,629	△1,708	△1,138,328	△83,129	2,684	△80,445	△1,218,773
平成18年12月31日 残高		529,500	331,500	9	331,509	114,146	605,877	1,030,000	△358,086	1,391,636	△16,942	2,235,703	220,092	2,684	222,776	2,458,480

# Corporate data

## ■ 会社概要 (平成18年12月31日現在)

商号 木徳神糧株式会社  
 事業内容 米穀事業、海外事業、飼料事業、  
 コメ加工食品事業  
 本社所在地 〒132-0015  
 東京都江戸川区西瑞江2-14-6  
 TEL：03-5636-1501 (代表)  
 FAX：03-5636-1601  
 資本金 5億2,950万円  
 従業員数 140名

## ■ 事業所一覧 (平成18年12月31日現在)

本店 東京都中央区銀座  
 本社 東京都江戸川区西瑞江  
 関西支店 滋賀県東近江市  
 桶川精米工場 埼玉県桶川市  
 本牧精米工場 横浜市中区かもめ町

## ■ 役員 (平成19年3月27日現在)

### 取締役・監査役

取締役会長	木村良
代表取締役社長	平山惇
専務取締役	松山正吉
常務取締役	山本幸雄
取締役執行役員	水野正夫
取締役執行役員	伊豫田直記
常勤監査役	高橋健治
※ 監査役	松下守
※ 監査役	杉野翔子

※印は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

### 執行役員

上席執行役員	天川誠
上席執行役員	小森浩資
専任執行役員	稲垣英樹
専任執行役員	鎌田慶彦
専任執行役員	竹田光男

## ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。



<http://www.kitoku-shinryo.co.jp>

## アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまの声を数多くお聞きするため、アンケートを実施させていただいております。お手数ではございますが、同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函ください。結果は次回の株主通信誌上にてご報告いたします。ご協力お願いいたします。

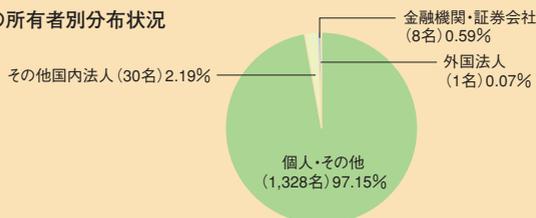
## ■ 株式の状況 (平成18年12月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 8,530,000株  
 (3) 株主数 1,367名  
 (4) 大株主

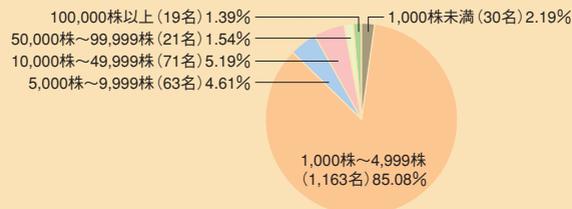
株主名	持株数	出資比率
木村謙三	405千株	4.75%
木村初子	351	4.11
木村良	321	3.76
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.52
木村友二郎	242	2.84
稲垣辰彌	229	2.68
濱田精麥株式会社	218	2.56
水野正夫	211	2.47
木徳神糧従業員持株会	205	2.41
株式会社三井住友銀行	186	2.18
農林中央金庫	186	2.18

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 出資比率は、小数点第3位を四捨五入で表示しております。

## ■ 株式の所有者別分布状況



## ■ 株式の所有数別分布状況



## ■ 株主メモ

- 事業年度 1月1日から12月31日まで  
 ■ 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。  
 ■ 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日  
 ■ 配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日  
 ■ 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 ■ 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 ■ 同事務連絡先 〒137-8081  
 (郵便物送付先) 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 (お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)  
 ■ 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
 野村證券株式会社 全国各支店  
 ■ 公告方法 日本経済新聞  
 貸借対照表及び損益計算書を当社のホームページに掲載しております。  
<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/koukoku.html>

## (届出諸事項についてのお知らせ)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求及び買増請求に必要な各用紙及び株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。